

戦後八〇年を出発点に

戦争の経験を語る言葉を読み合うことから

今年、日本は第二次世界大戦から80年を迎えますが、この大戦後も世界中で多くの戦争や虐殺があり、今も連日メディアで目の当たりにするのは、ウクライナ、ガザでの戦闘状況、さらにイランやシリアへの爆撃のニュースです。今、平和な社会の構築は、地球全体の、すべての人間にとっての課題です。

この夏は、日本の各地で、この戦後80年という節目に、さまざまな形で戦争の記憶を共有する催し物が開催されています。戦争を体験した世代が高齢化している今日、その記憶が失われていることへの危機感から、戦争体験の記憶の継承は重要な課題となっています。一方で、この80年間、戦争体験者たちは、日記や手記、文学作品、生活綴り方、絵画など、そしてもちろん日常生活の言葉を通して、その記憶を残しています。思い出すことも苦しいことを何とか思い出し、残してきているそうした言葉を、今一度、私たちは読み合い、学び合うことを通して、今、私たちはどう生きるべきか、何ができるか、考え続ける契機としたいと考えています。

またこの日は、長崎原爆の日です。原爆や戦争によって失われたあらゆる生命とともに悼む時間にしたいとも考えています。

日時 8月9日（土）10:30-12:00

場所 戸山キャンパス33号館
16階第10会議室

どなたでもご参加いただけます。
参加希望される方は、問合せ先にお名前・ご所属などをご一報ください。

プログラム

- 10:30～ 開会
- 10:40～ 話題提供
「8月9日の長崎から考える」
矢内琴江（文学学術院・准教授）
- 11:02～ 黙祷
- 11:03～ ディスカッション
話題提供を受けつつ、参加者各自が持参した戦争に関わる本や文章を紹介し合いながら、戦争体験者の記憶から今私たちが学ぶことを共に考えます。（紹介したい本などがなくても大丈夫です。）
- 12:00 終了

問合せ先

「現代社会における危機の解明と共生社会創出に向けた研究」部門 研究員 矢内琴江（文学学術院）
Mail: kotoeyauchi@waseda.jp